R7 普及情報（水稲）第 1 号
令 和 7 年 5 月 30 日
坂東地域農業改良普及センター

水田に発生するアオミドロ対策について

現在、気温の上昇に伴いアオミドロが多発しています。下記のとおりアオミドロ対策をまとめましたので今後の参考にしてください。

1　アオミドロとは

水温が 20℃前後で多発する藻類のこと。移植直後に多発すると、水温・地温の低下、苗のなぎ倒し、および肥料養分の収奪などにより生育を抑制することがあります。また、除草剤拡散の障害となり、防除効果が低減することもあります。

2　アオミドロが多発する条件

（1）土壌中の栄養過多（有機物や窒素、リンが多い場合に多発する）
（2）日射量が多い（日光が長く当たることで、光合成量が増加する）
（3）温度の上昇（アオミドロは特に平均気温 15℃～20℃で発生が盛んになる）

3　発生が多い場合の対策

（1）中干しを行います。「コシヒカリ」の中干し開始適期は茎数 330～350 本/㎡が目安ですが、少し早めに行っても問題ありません。(50 株/坪植え：22～23 本/株、60 株/坪植え：18～19 本/株)。なお、中干しでの乾きが不十分であると藻類は再発生するため、入水は完全に枯らしてから行ってください。

また、分げつ数が中干の目安よりも大きく不足している場合には 2～3 日おきに入水と落水を繰り返し水温の上昇を抑えましょう。

（2）藻類（アオミドロ）に登録のある除草剤を散布します（表）。なお、晴天日の朝に散布すると最も効果的です。

表　移植水稲における藻類に登録のある除草剤の一例（令和７年５月 14 日現在）

農薬名	使用量	使用方法	使用時期	本剤の使用回数	有効成分(ACN)の総使用回数
モゲトンジャンボ	20個(1kg)/10a	水田に投げ入れる	ｳｷｸｻ類、ｱｵﾐﾄﾞﾛ・藻類による表層はく離の発生時(※)	3回以内	3回以内
モゲトン粒剤	2～3kg/10a	湛水散布又は無人ﾍﾘｺﾌﾟﾀｰによる散布	ｳｷｸｻ類、藻類の発生始～発生盛期(※)		
	2kg/10a	水口施用	藻類・表層はく離の発生時(※)		

※ 使用時期：収穫45日前までに限る

農薬を使用する際は、必ず使用前にラベルを見て、対象作物、希釈倍数や散布液量、使用時期、使用回数等を確認しましょう（令和７年５月 14 日登録確認）。農薬散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散（ドリフト）しないように注意しましょう。